

Indicators Update

2012年6月20日 全11頁

5月貿易統計～輸入数量の増加で貿易赤字が拡大

経済調査部 エコノミスト 長内 智

欧州債務問題が国際貿易の重石へ

[要約]

- **【概況】貿易収支の赤字幅が一段と拡大**：2012年5月の貿易統計は、これまで貿易赤字の主因であった輸入価格の伸びが鈍化した点が注目される一方で、代替燃料の輸入量が大きく増加して、貿易赤字が拡大するという先行き不透明感を強める内容であった。5月の輸出金額は前年比+10.0%と市場コンセンサスを小幅に上回り、プラス幅も前月より拡大した。ただし、営業日数が前年より2日多かったことや東日本大震災によって前年に落ち込んだ反動増の影響が大きく、今回の輸出の結果は幾分割り引いて評価する必要があるだろう。
- **【地域・品目別動向(名目)】対EUで初の貿易赤字**：主要品目別にみると、輸出が増加した業種では、昨年の落ち込みからの反動増が続く「輸送用機器」が前年比+50.6%と4ヶ月連続で増加し、全体を押し上げた。他方、「化学製品」は、アジア地域で景気減速感が強まっていることやEU向けの低迷を受けて、前年比▲2.4%と9ヶ月連続の減少となった。主要国・地域別の輸出金額は、米国向けが前年比+38.2%（4月、同+42.9%）、EU向けが同▲0.9%（4月、同▲2.0%）、アジア向けが同+4.5%（4月、同▲2.6%）となった。
- **【今後の見通し】欧州債務問題が国際貿易へ波及**：輸出は、総じてみれば横ばい圏で推移すると考えている。中国など主要新興国の欧州向け輸出の減速感が強まっていることに加えて、足下では米国の欧州向け輸出にも陰りが出始めるなど、欧州債務問題が国際貿易の重石になり始めている点には注意が必要であろう。ただし、当社では、欧州債務問題が一段と深刻化しなければ、輸出は腰折れせずに徐々に持ち直していくことを見込んでいる。輸入の増勢は夏場を境にして鈍化局面に転じると考えている。輸出が横ばい圏で推移し、輸入水準も高い状況が続く結果、貿易収支の赤字基調はしばらく継続すると予想する。

【概況】貿易収支の赤字幅が一段と拡大

輸入数量の増加で赤字幅が拡大

2012年5月の貿易統計は、これまで貿易赤字の主因であった輸入価格の伸びが鈍化した点が注目される一方で、代替燃料の輸入量が大きく増加して、貿易赤字が拡大するという先行き不透明感を強める内容であった。

輸出は3ヶ月連続のプラス

5月の輸出金額は前年比+10.0%と市場コンセンサス(同+9.7%)を小幅に上回り、プラス幅も前月(同+7.9%)より拡大した。ただし、営業日数が前年より2日多かったことや東日本大震災によって前年に落ち込んだ反動増の影響が大きく、今回の輸出の結果は幾分割り引いて評価する必要があるだろう。なお、輸出金額の基調を捉えるために季節調整値(3ヶ月移動平均)をみると、前月比+0.3%と4ヶ月連続のプラスとなったことが確認できる。5月の輸入金額は、前年比+9.3%と29ヶ月連続で増加し、プラス幅も拡大した。欧州債務問題の再燃に伴うリスク回避の動きによってエネルギー価格が調整したことを背景に、輸入価格は前年比+0.8%と伸びが大きく鈍化した。電力需要が高まる夏場を控えて代替燃料の輸入量が大幅に増加し、輸入金額を押し上げた。この結果、貿易収支は▲9,073億円と3ヶ月連続の赤字になり、前月(▲5,220億円)よりも赤字幅が拡大した。

図表1：貿易統計の概況(原系列、前年比、%)～輸入価格の伸びが大きく鈍化

	2011年							2012年				5月
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	
輸出金額	▲1.6	▲3.3	2.8	2.3	▲3.8	▲4.5	▲8.0	▲9.2	▲2.7	5.9	7.9	10.0
コンセンサス												9.7
DIR予想												13.5
輸入金額	9.9	9.9	19.2	12.2	17.9	11.5	8.2	9.6	9.3	10.6	8.1	9.3
輸出数量	▲2.6	▲5.2	0.9	1.4	▲4.0	▲4.4	▲6.6	▲10.1	▲3.8	3.7	4.7	9.4
価格	1.0	2.0	1.9	0.9	0.2	▲0.1	▲1.5	1.0	1.2	2.1	3.1	0.6
輸入数量	1.7	▲2.6	6.1	1.0	6.0	▲1.0	▲0.7	3.1	3.2	3.1	1.9	8.4
価格	8.0	12.8	12.4	11.1	11.3	12.5	8.9	6.3	5.9	7.3	6.0	0.8
貿易収支	645	697	▲7,775	2,888	▲2,830	▲6,912	▲2,083	▲14,815	254	▲871	▲5,220	▲9,073

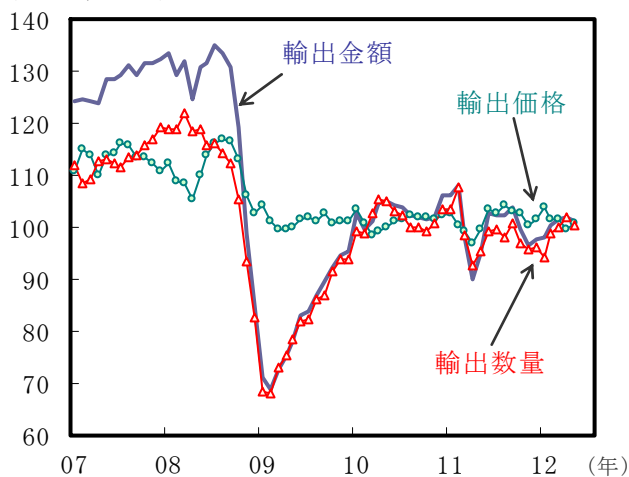
(注1) 貿易収支は億円。

(注2) コンセンサスはBloomberg。

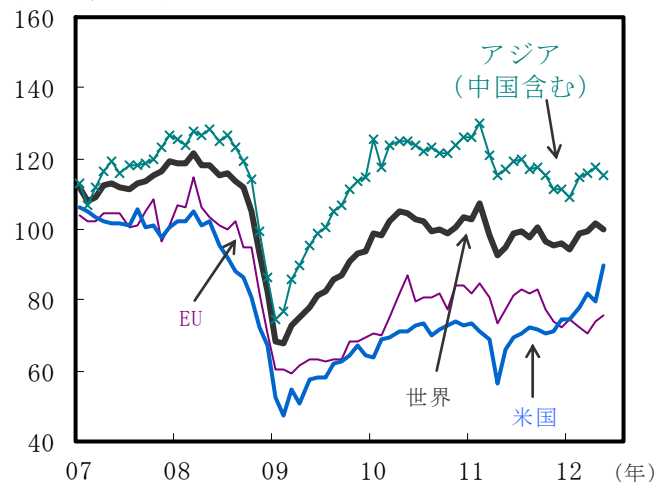
(出所) 財務省、Bloombergより大和総研作成

図表2：輸出金額・数量・価格と地域別輸出数量の推移(季節調整値)～輸出数量は横ばい圏

(2005年=100) 金額・数量・価格



(2005年=100) 地域別の数量指数



(注) 季節調整は「輸出金額」が財務省、他は大和総研。

(出所) 財務省統計より大和総研作成

【地域・品目別動向(名目)】 対EUで初の貿易赤字

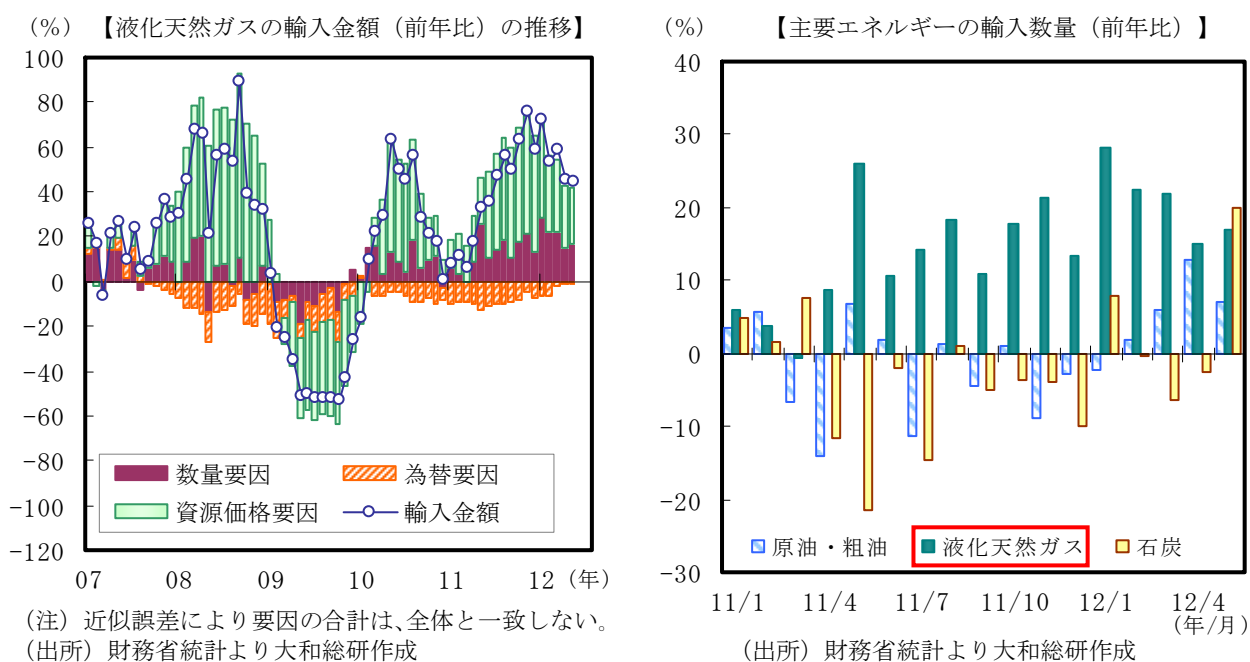
輸送用機器は堅調に推移

主要品目別にみると、輸出が増加した業種では、昨年の落ち込みからの反動増が続く「輸送用機器」が前年比+50.6%と4ヶ月連続で増加し、全体を押し上げた。「輸送用機器」は、欧州債務問題の影響で欧州向けが減速している一方で、新車販売が好調な米国向けは堅調に推移している。また、「原料別製品(鉄鋼、非鉄金属、金属製品など)」が前年比+6.1%と8ヶ月振りのプラスとなった。前年の反動増の影響がプラスに作用している側面があるものの、これまで不振であったアジア向けに底入れ感がみられ始めた点に注目したい。他方、「化学製品」は、アジア地域で景気減速感が強まっていることやEU向けの低迷を受けて、前年比▲2.4%と9ヶ月連続の減少となった。マイナス幅こそ縮小したものの、前年の反動増という押し上げ効果があってもプラス転換できなかったことを鑑みると、「化学製品」の輸出環境は依然として厳しい状況にあると判断できよう。「一般機械」は米国向けが堅調である一方、EU向けとアジア向けが低迷したことで、2ヶ月連続のマイナスとなった。輸入については、代替燃料の需要増加と価格高止まりを背景に、「液化天然ガス」の輸入金額が前年比+44.3%、輸入数量が同+16.8%と揃って大幅に増加した。

EU向けの低迷が続く

主要国・地域別の輸出金額は、米国向けが前年比+38.2%(4月、同+42.9%)、EU向けが同▲0.9%(4月、同▲2.0%)、アジア向けが同+4.5%(4月、同▲2.6%)となった。経済の緩やかな回復が続く米国向け輸出は7ヶ月連続のプラスと回復基調を維持した。財政債務問題の影響が実体経済に波及してきたEU向け輸出は小幅ながらも8ヶ月連続のマイナスと低迷が続く。なお、対EU貿易収支は、輸出の不振を背景にして、5月に史上初めて赤字を記録した。アジア向けは、経済減速の影響がマイナスに作用する一方で、前年からの反動増の影響の方が大きく出たため、2ヶ月振りのプラスとなった。

図表3：液化天然ガスの輸入金額と主要エネルギーの輸入数量（前年比）



【今後の見通し】欧州債務問題が国際貿易へ波及

世界的に欧州向け輸出が重石

輸出は、総じてみれば横ばい圏で推移すると考えている。中国など主要新興国の欧州向け輸出の減速感が強まっていることに加えて、足下では米国の欧州向け輸出にも陰りが出始めるなど、欧州債務問題が国際貿易の重石になり始めている点には注意が必要であろう。ただし、当社では、欧州債務問題が一段と深刻化しなければ、輸出は腰折れせずに徐々に持ち直していくことを見込んでいる。これは、緩やかに景気回復が続く米国向け輸出が底堅く推移し、金融緩和政策による景気下支え効果が今後期待される新興国向けの輸出が徐々に改善すると考えるためである。

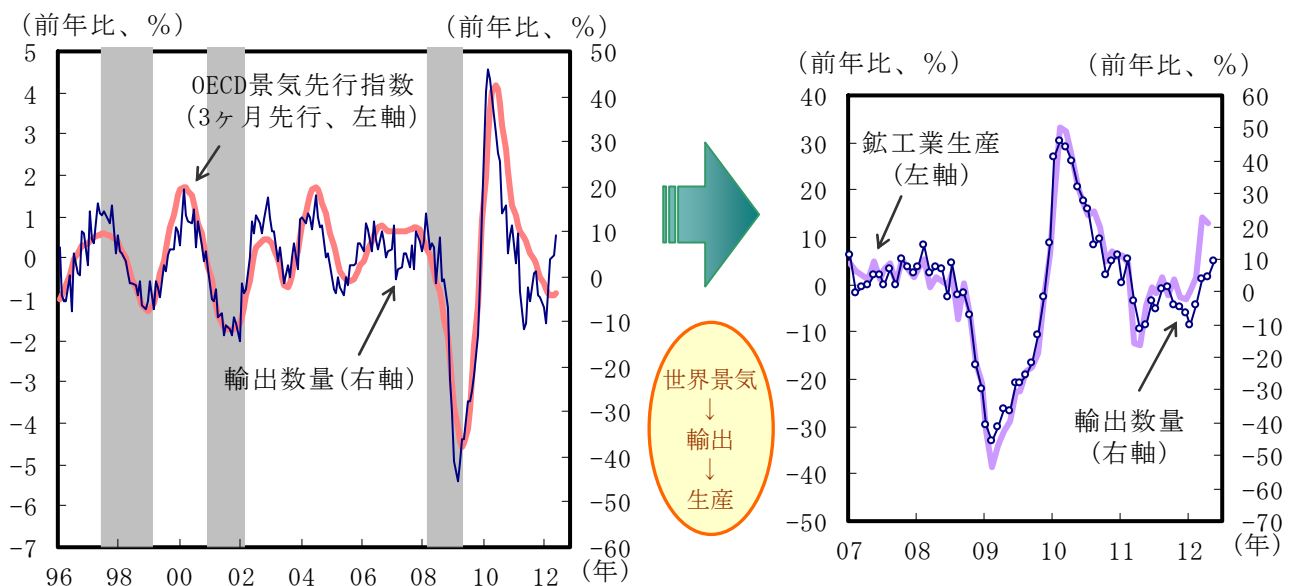
輸入数量は夏場にピーク

輸入は、引き続き増加傾向を続けるものの、その増加テンポは少しずつ鈍化するとみている。これから電力需要が高まる夏場にかけては、原子力発電所の稼働停止に伴う代替燃料の輸入量の増加が見込まれる(図表5)。一方、欧州債務問題が再燃した後にリスク回避の動きが強まってエネルギー価格が調整しており、輸入価格の上昇傾向に変調の兆しがみられる。そのため、地政学的リスクなどによってエネルギー価格が再び大きく上昇しなければ、輸入の増勢は夏場を境にして鈍化局面に転じると考えている。なお、日本の液化天然ガスの調達価格は、価格交渉力の弱さなどから国際的に割高な水準が続いているため、国際商品市況の下落ほどには調達価格が下がらない可能性がある。

貿易赤字基調は継続

輸出が横ばい圏で推移し、輸入水準も高い状況が続く結果、貿易収支の赤字基調はしばらく継続すると予想する。当社は、これまで数ヶ月続いた貿易収支(前年差)の改善傾向が一服して、今後は再び悪化へ転じると考えている(図表6)。また、上述したように、欧州債務問題が国際貿易の重石になり始めているため、その問題が日本の輸出に及ぼす影響については、今後も引き続き注意深く観察したい。

図表4：OECD景気先行指数・輸出数量・鉱工業生産指数

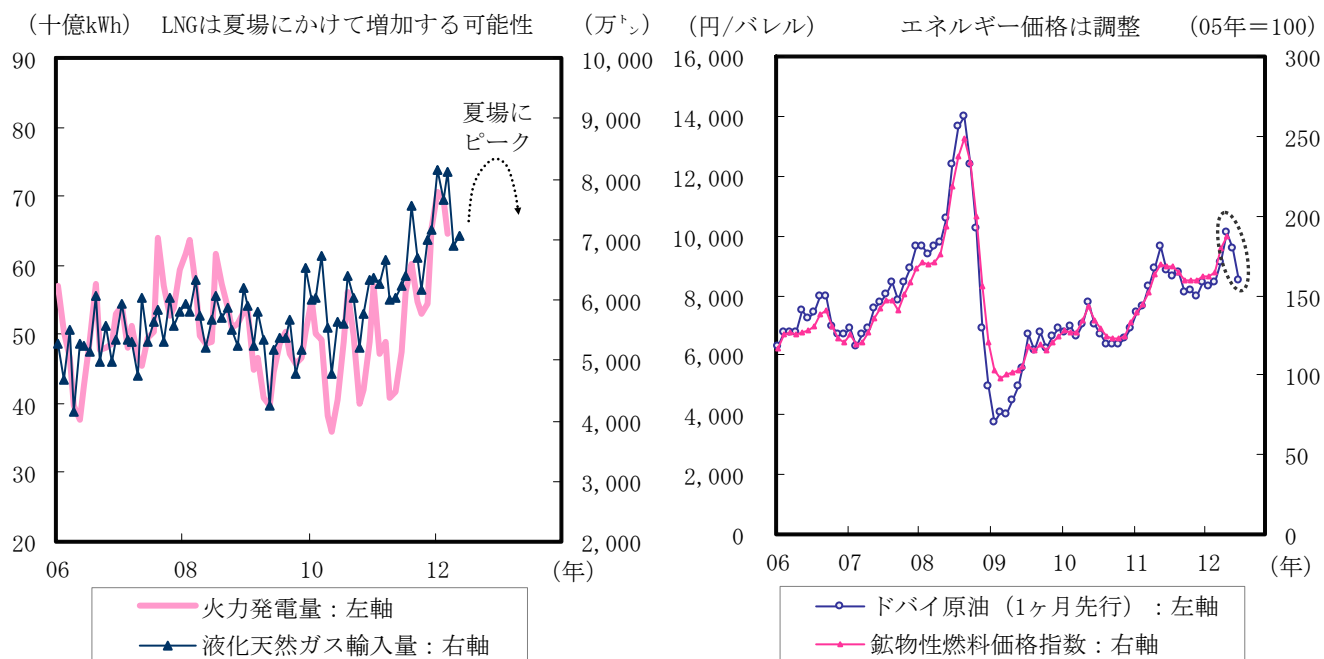


(注1) OECD景気先行指数(CLI)はOECD諸国とBRICsなど非加盟6ヶ国を集計したベース。

(注2) シェドウは景気後退局面。

(出所) 財務省、経済産業省、OECD統計より大和総研作成

図表 5 : LNG の輸入量は夏場にピーク V.S. エネルギー価格の上昇に一服感



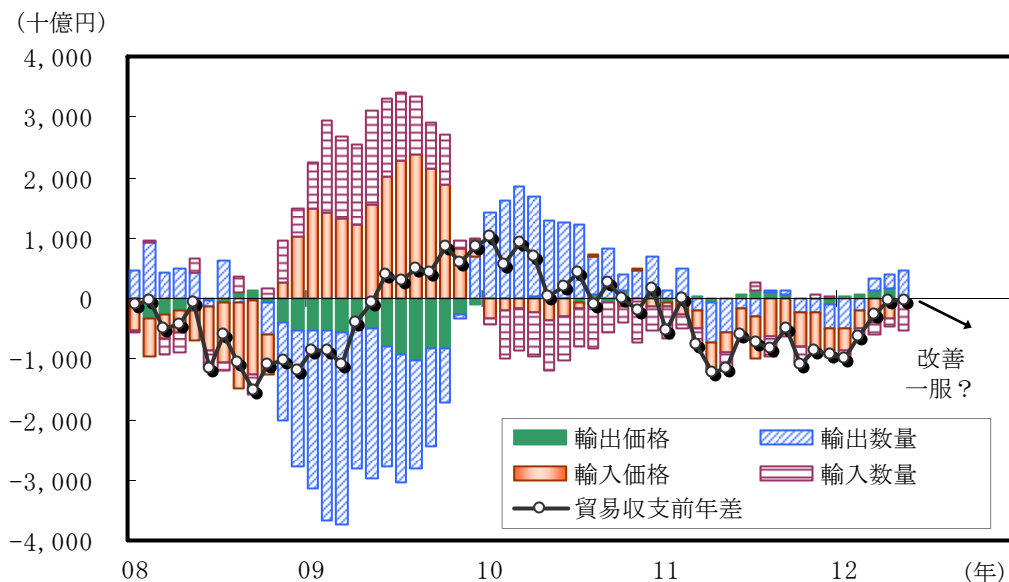
(出所) 財務省、資源エネルギー庁統計より大和総研作成

(注) ドバイ原油は円換算。

(注) 価格指数は2012年4月まで。

(出所) 財務省統計より大和総研作成

図表 6 : 貿易収支（前年差）の要因分解

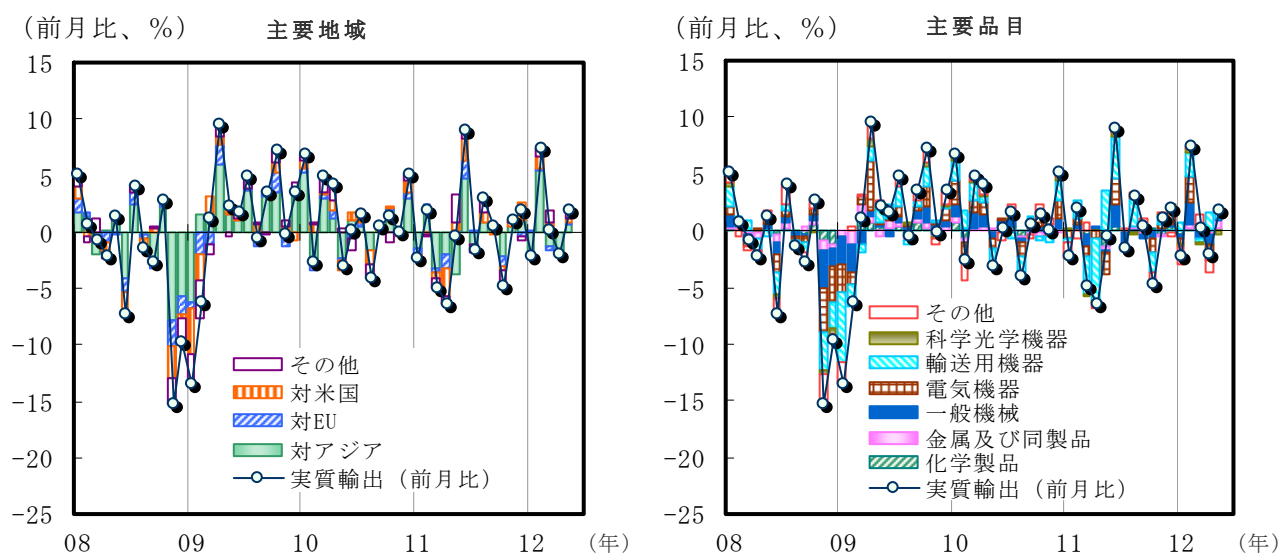


(出所) 財務省統計より大和総研作成

【参考】実質輸出の動向

実質輸出（季節調整値、当社試算）は、前月比+1.9%と2ヶ月振りのプラスとなった。主要国・地域別では、米国向けが前月比+2.6%、EU向けが同+1.1%、アジア向けが同+1.3%となった。米国向けは「輸送用機器」が堅調に推移したことに加えて、「化学製品」や「電気機器」が改善したとで、2ヶ月振りのプラスとなった。EU向けは、財政金融問題の影響で弱含み傾向にあるが、「輸送用機器」に持ち直しの動きが出てきたことで、3ヶ月振りのプラスとなった。アジア向けは「輸送用機器」、「電気機器」、「一般機械」が全体を押し上げた。

図表7：実質輸出（季節調整済み前月比）の主要項目別の寄与度

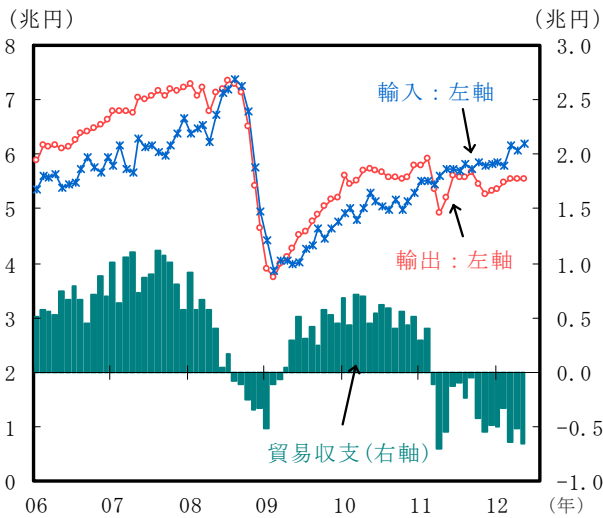


(注) 実質化と季節調整は大和総研。

(出所) 財務省、日本銀行統計より大和総研作成

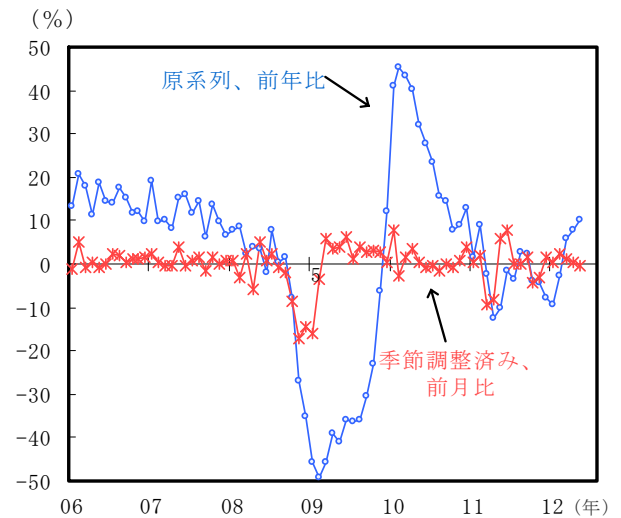
概況 貿易収支の赤字基調が長引く

輸出入と貿易収支（名目、季節調整値）

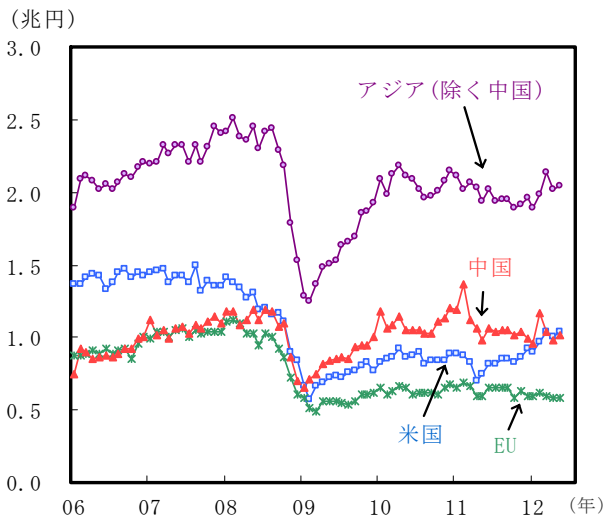


(出所) 財務省統計より大和総研作成

輸出額の変化率（名目）

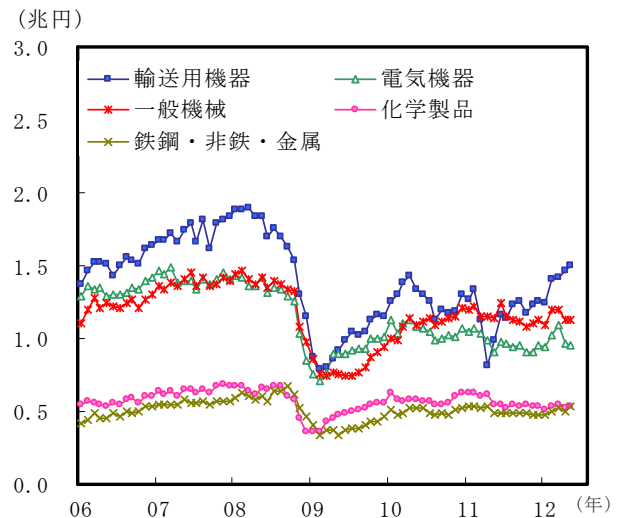


主要地域・国別の輸出額（名目、季節調整値）

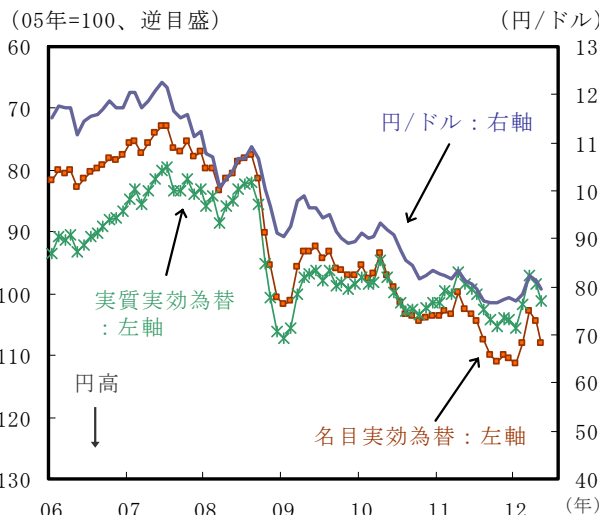


(注) 季節調整は大和総研。
(出所) 財務省統計より大和総研作成

主要商品別の輸出額（名目、季節調整値）

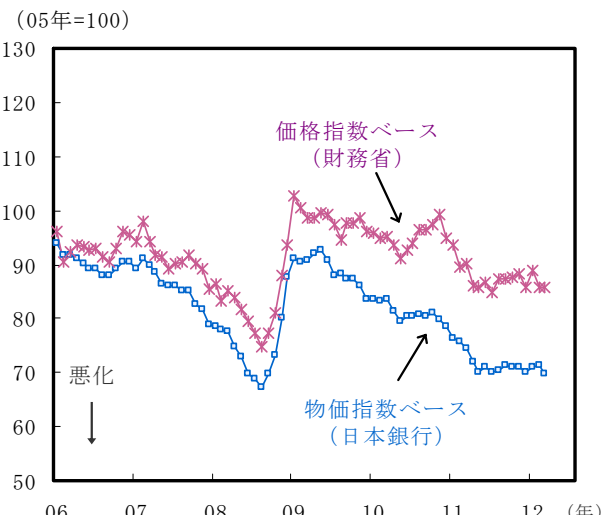


為替相場



(注) 交易条件は、輸出価格指数/輸入価格指数（輸出物価指数/輸入物価指数）。
(出所) 財務省、日本銀行統計より大和総研作成

交易条件

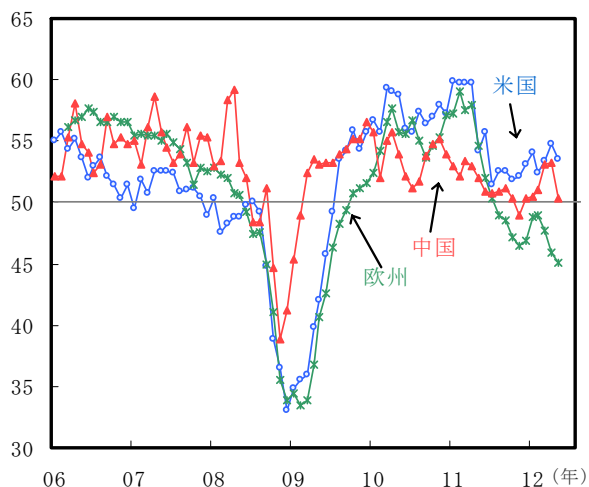
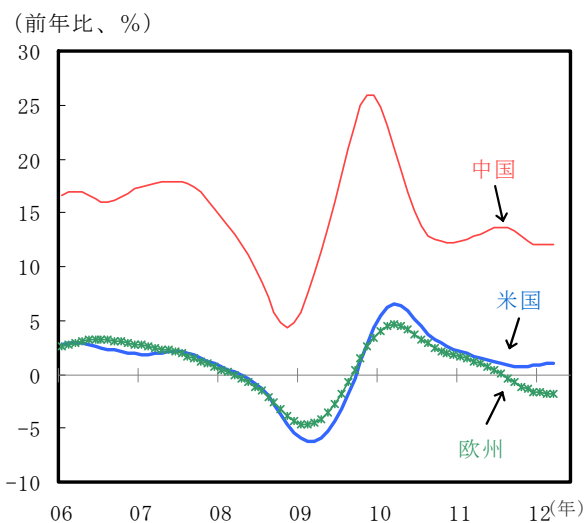


海外環境

欧州の景気減速が鮮明

OECDの景気先行指数（米国・中国・欧州）

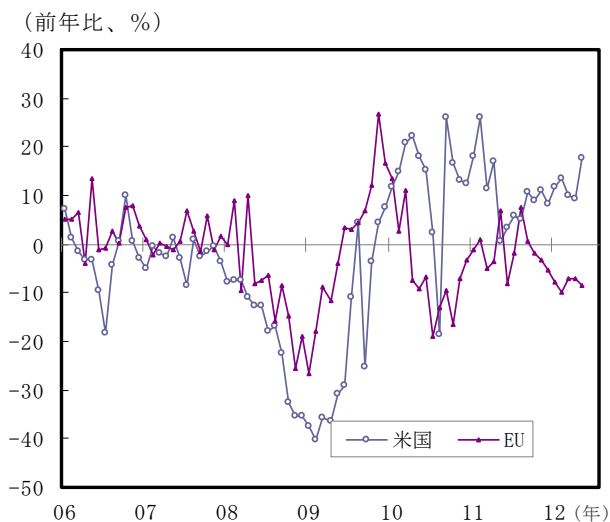
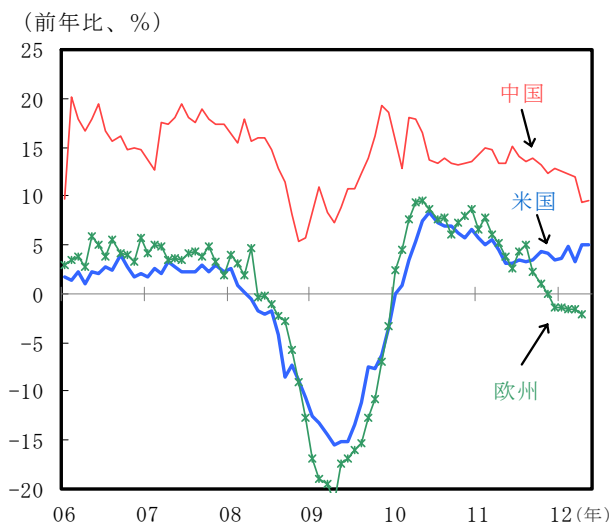
製造業PMI（米国・中国・欧州）



(注) 景気先行指数はトレンドを含むベース。
(出所) OECD、米ISM、中国物流購買連合会、Markitより大和総研作成

鉱工業生産指数（米国・中国・欧州）

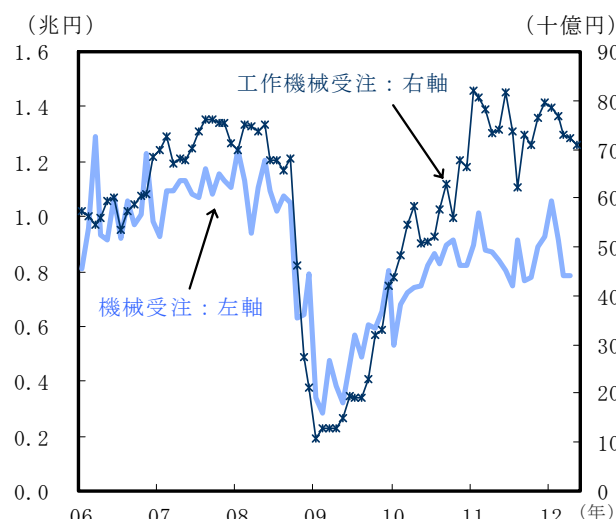
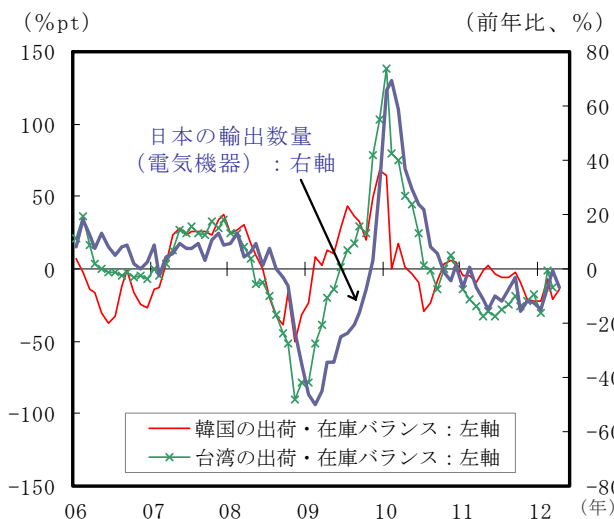
米国と欧州の自動車販売



(出所) 中国国家统计局、Eurostat、FRB、オートデータ社、欧州自動車工業会(ACEA)より大和総研作成

韓国・台湾の出荷・在庫バランス（電子部品）

機械受注と工作機械受注の外需（季節調整値）

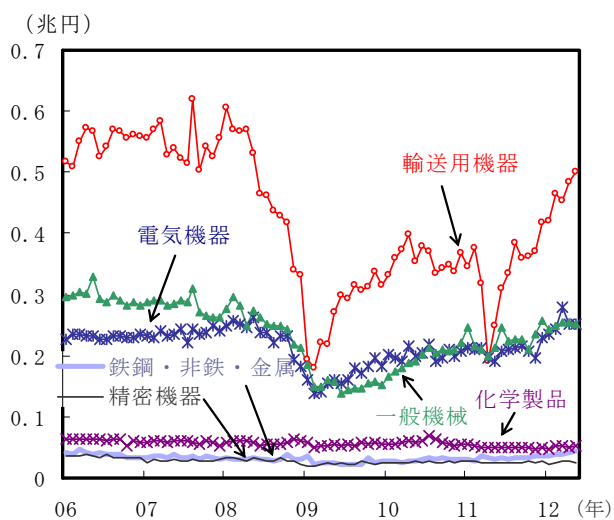


(注) 工作機械受注の季節調整は大和総研。
(出所) 財務省、内閣府、日本工作機械工業会統計、CEICより大和総研作成

主要地域・国別の実質輸出(季節調整済み)

米国向け輸送用機器が好調を維持

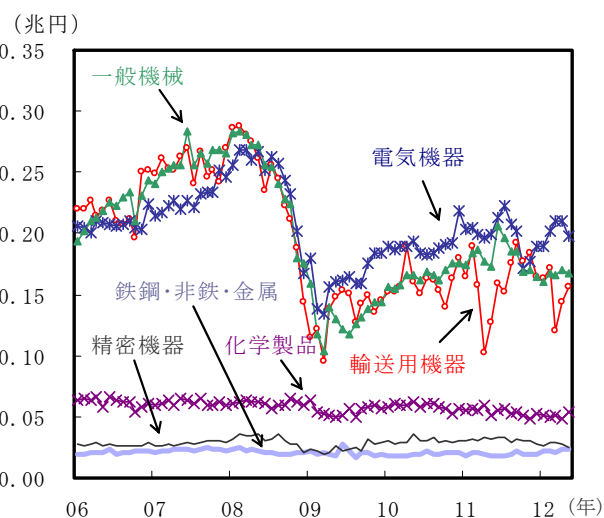
米国向け



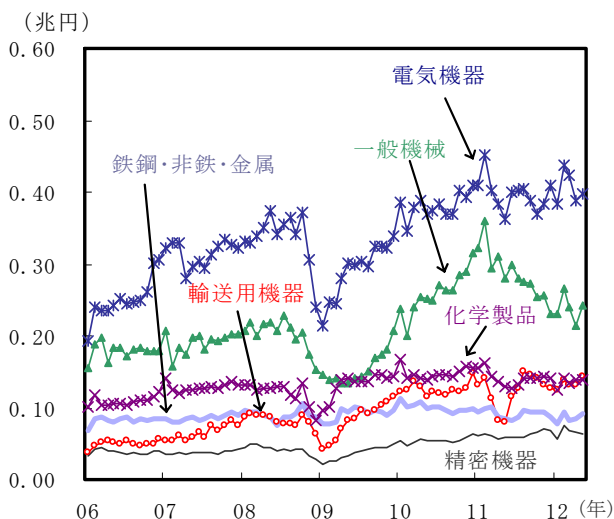
(注) 実質化と季節調整は大和総研。

(出所) 財務省、日本銀行統計より大和総研作成

EU向け



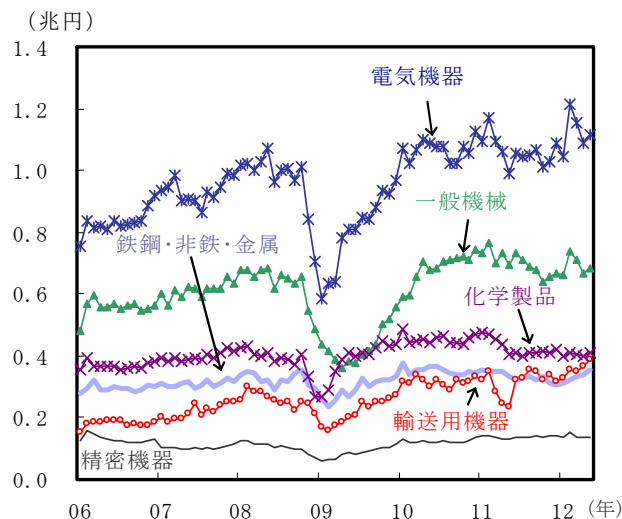
中国向け



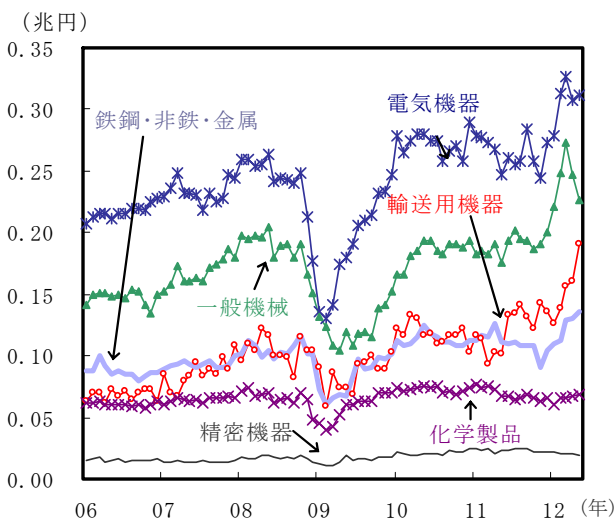
(注) 実質化と季節調整は大和総研。

(出所) 財務省、日本銀行統計より大和総研作成

アジア向け(中国含む)



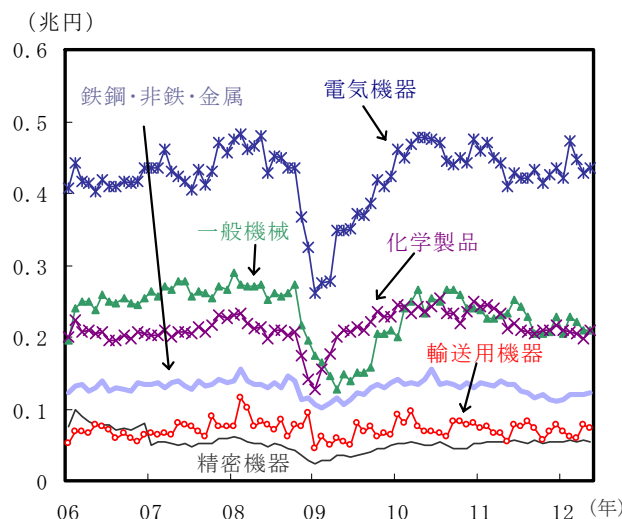
ASEAN向け



(注) 実質化と季節調整は大和総研。

(出所) 財務省、日本銀行統計より大和総研作成

NIES向け



輸出金額 内訳

	2011/12	2012/01	2012/02	2012/03	2012/04	2012/05		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	▲8.0	▲9.2	▲2.7	5.9	7.9	10.0	100.0	10.0
食料品	▲14.6	▲26.7	▲14.9	▲12.7	9.8	14.2	0.5	0.1
原料品	▲5.3	▲1.2	▲2.6	12.4	11.9	40.2	1.9	0.6
鉱物性燃料	▲30.8	▲33.9	▲38.7	▲18.5	51.0	13.4	2.0	0.3
化学製品	▲14.0	▲17.5	▲14.9	▲8.4	▲16.1	▲2.4	10.0	▲0.3
原料別製品	▲8.1	▲10.9	▲6.4	▲0.1	▲5.2	6.1	14.5	0.9
鉄鋼	▲11.4	▲11.3	▲12.6	▲3.5	▲12.7	9.3	6.4	0.6
非鉄金属	▲8.2	▲14.8	2.9	2.6	2.8	3.4	2.1	0.1
金属製品	▲4.2	▲3.9	3.7	9.3	3.5	20.2	1.6	0.3
一般機械	▲6.4	▲8.7	▲1.5	4.5	▲2.4	▲1.9	19.9	▲0.4
電気機器	▲10.1	▲10.0	▲3.4	6.1	▲1.4	5.6	17.1	1.0
半導体等電子部品	▲13.0	▲15.8	▲6.0	▲9.2	▲10.6	▲6.8	4.9	▲0.4
IC	▲7.8	▲12.8	▲5.0	▲5.2	▲5.5	▲2.0	3.2	▲0.1
映像記録・再生機器	▲31.9	0.9	▲1.5	41.3	88.3	24.3	1.1	0.2
音響・映像機器の部分品	▲23.5	▲17.5	▲12.6	▲5.2	▲17.5	7.8	0.7	0.1
電気回路等の機器	▲7.2	▲10.8	▲4.6	3.5	▲5.5	7.1	2.4	0.2
輸送用機器	▲4.2	▲1.4	5.4	25.4	81.9	50.6	23.3	8.6
自動車	▲4.1	2.2	7.4	44.7	219.7	87.4	14.4	7.4
自動車の部分品	▲5.5	▲4.9	▲1.2	24.2	17.6	46.1	5.1	1.8
その他	▲5.9	▲11.5	1.7	▲1.1	▲10.1	▲6.2	10.7	▲0.8
科学光学機器	▲1.1	▲7.0	4.5	3.7	4.1	▲1.3	3.1	▲0.0

米国向け輸出金額 内訳

	2011/12	2012/01	2012/02	2012/03	2012/04	2012/05		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	3.9	0.7	11.9	23.9	42.9	38.2	100.0	38.2
食料品	10.8	▲3.2	9.8	10.1	11.1	▲5.3	0.5	▲0.0
原料品	▲4.4	31.6	▲22.0	2.0	▲2.7	160.2	1.1	0.9
鉱物性燃料	▲34.8	▲25.3	▲35.0	107.3	▲70.8	▲90.4	0.0	▲0.4
化学製品	▲16.1	▲17.1	▲4.5	4.6	▲4.2	2.2	5.2	0.2
原料別製品	3.5	▲0.3	15.5	6.7	8.8	22.3	8.2	2.1
鉄鋼	14.8	19.1	75.9	▲5.1	12.9	29.7	2.6	0.8
非鉄金属	▲8.2	▲21.3	▲32.3	13.6	▲6.1	25.4	0.6	0.2
金属製品	12.5	1.9	18.7	24.7	25.2	52.7	1.9	0.9
一般機械	13.2	▲4.4	12.4	20.7	25.9	17.1	22.8	4.6
電気機器	1.7	1.1	7.2	25.6	19.3	22.8	14.5	3.7
半導体等電子部品	▲4.5	▲15.1	▲9.2	▲4.7	▲15.6	1.8	2.0	0.0
IC	▲9.9	▲26.9	▲5.4	▲5.3	▲19.8	▲4.3	1.1	▲0.1
映像記録・再生機器	▲34.8	17.9	▲3.4	54.1	147.1	38.4	1.6	0.6
音響・映像機器の部分品	▲9.7	▲7.9	▲11.0	95.2	▲14.3	9.5	0.3	0.0
電気回路等の機器	2.0	▲3.6	8.9	12.1	13.6	19.7	1.4	0.3
輸送用機器	6.8	11.1	20.0	42.5	149.0	95.5	38.6	26.1
自動車	1.9	14.0	26.9	46.2	317.1	128.5	28.5	22.2
自動車の部分品	15.2	▲6.7	0.5	48.4	25.1	61.9	6.7	3.6
その他	▲11.8	▲11.2	▲2.1	4.4	0.3	9.6	9.1	1.1
科学光学機器	▲6.6	▲21.9	▲8.2	12.4	2.4	4.9	2.2	0.1

EU向け輸出金額 内訳

	2011/12	2012/01	2012/02	2012/03	2012/04	2012/05		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	▲12.7	▲7.6	▲10.7	▲9.7	▲2.0	▲0.9	100.0	▲0.9
食料品	8.3	▲15.1	3.6	▲17.5	63.9	6.3	0.2	0.0
原料品	▲27.6	4.9	15.4	27.2	7.4	68.5	2.0	0.8
鉱物性燃料	▲90.7	▲87.2	▲97.3	▲31.2	▲44.1	26.4	0.1	0.0
化学製品	▲11.7	▲13.5	▲16.5	▲7.1	▲21.4	▲0.1	9.2	▲0.0
原料別製品	▲6.0	1.9	▲1.8	▲3.3	5.3	▲0.4	8.7	▲0.0
鉄鋼	▲31.2	▲13.3	▲40.4	▲38.6	▲9.6	42.8	2.1	0.6
非鉄金属	43.7	126.9	174.9	139.2	95.5	24.3	0.8	0.2
金属製品	▲13.1	▲14.6	4.1	▲9.5	▲8.5	▲2.9	1.5	▲0.0
一般機械	▲9.0	▲11.2	▲11.0	▲11.2	▲5.2	▲4.2	26.0	▲1.1
電気機器	▲20.0	▲13.8	▲9.0	1.7	0.2	▲7.8	19.6	▲1.6
半導体等電子部品	▲29.7	▲30.2	▲22.7	▲38.3	▲43.2	▲44.5	2.5	▲2.0
IC	▲7.7	▲19.4	▲16.0	▲8.8	▲17.5	15.8	1.6	0.2
映像記録・再生機器	▲51.9	▲19.6	▲21.7	16.8	55.5	14.9	2.8	0.4
音響・映像機器の部分品	▲35.1	▲20.3	▲22.3	▲4.6	50.0	35.1	1.0	0.3
電気回路等の機器	▲10.7	▲16.6	▲18.0	▲5.6	▲11.7	▲14.4	1.6	▲0.3
輸送用機器	▲14.6	▲9.2	▲12.6	▲23.9	36.3	19.2	20.3	3.2
自動車	▲20.1	▲29.7	▲31.0	▲26.2	104.6	12.5	9.8	1.1
自動車の部分品	2.3	2.6	▲0.2	5.7	12.8	20.0	6.5	1.1
その他	▲6.0	11.9	▲1.9	▲6.7	▲21.5	▲13.5	13.9	▲2.1
科学光学機器	▲11.5	▲15.8	▲7.8	▲6.1	▲17.7	▲22.3	3.4	▲1.0

アジア向け輸出金額 内訳								
	2011/12	2012/01	2012/02	2012/03	2012/04	2012/05		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	▲11.7	▲13.7	▲6.6	0.5	▲2.6	4.5	100.0	4.5
食料品	▲19.6	▲30.2	▲22.7	▲16.8	8.0	21.5	0.7	0.1
原料品	▲1.1	▲4.8	▲0.6	13.9	17.0	31.8	2.5	0.6
鉱物性燃料	▲34.2	▲33.9	▲36.7	▲13.9	35.3	21.1	2.9	0.5
化学製品	▲15.3	▲19.6	▲16.5	▲10.7	▲12.6	▲5.1	13.6	▲0.8
原料別製品	▲13.9	▲15.9	▲10.9	▲6.0	▲8.6	0.2	17.9	0.0
鉄鋼	▲18.8	▲16.6	▲16.6	▲10.3	▲15.4	▲1.8	8.4	▲0.2
非鉄金属	▲11.8	▲21.2	▲1.0	▲3.9	3.3	0.9	3.2	0.0
金属製品	▲8.3	▲5.3	▲3.0	8.7	1.7	14.7	1.7	0.2
一般機械	▲12.9	▲12.9	▲6.1	1.9	▲10.0	▲3.6	19.8	▲0.8
電気機器	▲10.9	▲11.6	▲4.1	2.5	▲4.3	4.5	20.8	0.9
半導体等電子部品	▲12.0	▲14.6	▲4.3	▲6.6	▲6.1	▲3.3	7.7	▲0.3
I C	▲7.6	▲11.4	▲4.3	▲5.0	▲3.7	▲2.7	5.2	▲0.2
映像記録・再生機器	▲23.2	1.1	15.5	53.5	79.8	25.6	0.8	0.2
音響・映像機器の部分品	▲22.2	▲17.5	▲7.0	5.3	▲12.2	9.2	0.8	0.1
電気回路等の機器	▲7.6	▲9.8	▲5.0	2.1	▲9.2	8.6	3.4	0.3
輸送用機器	▲10.5	▲5.3	▲1.3	23.2	47.1	59.4	9.5	3.7
自動車	▲10.7	▲1.2	2.1	46.6	148.6	86.3	4.7	2.3
自動車の部分品	▲17.4	▲9.3	▲5.7	18.2	11.1	45.7	4.0	1.3
その他	▲1.2	▲10.9	7.8	3.6	▲2.3	0.6	12.2	0.1
科学光学機器	1.7	▲6.0	8.0	2.9	6.6	0.6	3.7	0.0

中国向け輸出金額 内訳								
	2011/12	2012/01	2012/02	2012/03	2012/04	2012/05		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	▲16.3	▲20.2	▲14.0	▲5.9	▲7.1	3.0	100.0	3.0
食料品	▲32.3	7.3	▲25.7	▲28.0	118.7	127.9	0.2	0.1
原料品	▲6.7	▲14.4	▲1.9	8.3	25.3	25.0	3.8	0.8
鉱物性燃料	▲68.6	▲23.4	▲27.8	▲36.0	34.1	▲12.2	1.4	▲0.2
化学製品	▲13.0	▲23.0	▲16.1	▲5.9	▲3.8	▲0.9	13.5	▲0.1
原料別製品	▲15.2	▲21.4	▲9.5	▲14.8	▲10.2	▲0.8	14.6	▲0.1
鉄鋼	▲17.7	▲25.9	▲15.7	▲21.4	▲15.7	▲5.3	5.6	▲0.3
非鉄金属	▲14.3	▲18.9	8.9	▲19.2	9.5	7.1	2.8	0.2
金属製品	▲13.3	▲17.0	▲14.2	▲2.5	▲11.8	10.0	1.8	0.2
一般機械	▲28.4	▲31.0	▲28.0	▲18.1	▲31.9	▲14.9	21.3	▲3.9
電気機器	▲7.8	▲13.3	▲9.3	1.9	▲5.7	1.9	22.0	0.4
半導体等電子部品	8.0	▲3.4	0.4	▲2.0	▲8.4	▲3.1	7.7	▲0.3
I C	14.9	4.3	▲0.7	1.1	▲7.7	▲5.1	5.2	▲0.3
映像記録・再生機器	▲15.2	▲2.7	37.9	63.8	115.6	19.7	1.2	0.2
音響・映像機器の部分品	▲17.3	▲29.9	▲25.9	▲5.8	▲7.8	▲6.5	1.0	▲0.1
電気回路等の機器	▲14.1	▲16.1	▲9.6	0.4	▲14.4	3.2	3.5	0.1
輸送用機器	▲19.0	▲13.5	▲5.0	16.9	56.9	74.3	11.2	4.9
自動車	▲23.4	▲17.0	▲8.2	22.8	254.0	113.5	5.6	3.0
自動車の部分品	▲16.2	▲8.6	▲7.8	14.0	6.3	51.4	5.3	1.9
その他	▲1.1	▲13.8	▲0.8	2.6	0.4	9.6	12.0	1.1
科学光学機器	7.5	▲8.0	16.7	9.8	15.5	10.6	5.2	0.5

(出所) 財務省統計より大和総研作成